

令和2年度 第2回
大阪市胃がん検診専門会議

令和3年2月25日（木）

【事務局報告】

令和3年4月以降の本市胃がん検診の概要

国の指針及び大阪市胃がん検診専門会議（令和2年7月30日）を踏まえ
 エックス線検査の対象年齢を令和3年度より40歳以上から50歳以上に見直す

●（第1回胃がん検診専門会議後にご報告した内容）

検査種別	対象者	実施回数	実施形態	自己負担額
胃部エックス線	50歳以上	1年に1回	個別	500円
内視鏡		2年に1回		1,500円



ただし、十分な周知と激変緩和を図るため、
 経過措置として令和5年度までは40歳代の検診受診を可能とする

●（現在：関係各所調整後）

検査種別	対象者	実施回数	実施形態	自己負担額
胃部エックス線	50歳以上 （令和5年度まで 40歳代も受診可）	1年に1回	個別	500円
内視鏡	50歳以上	2年に1回		1,500円

【令和3年度からの変更点】

- ① 集団検診の廃止
- ② 胃部エックス線検査の受診自己負担額の減額
- ③ 対象年齢の引き上げ（令和5年度まで経過措置）

年齢	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
40歳代	← 受診可（経過措置） →			受診不可
50歳以上	受診可			

対象年齢見直し（50歳以上）
 市民広報

大阪市健康増進計画
 「すこやか大阪21（第2次後期）」の期間終了

議題

- (1) 大阪市胃がん検診（胃部エックス線検査）実施体制について
- (2) 大阪市胃がん検診の受診率向上について

議題

(1) 大阪市胃がん検診（胃部エックス線検査）実施体制について

(2) 大阪市胃がん検診の受診率向上について

(1) 大阪市胃がん検診（胃部エックス線検査）実施体制について

	指針	チェックリスト	個別・エックス線（令和2年度現在）
対象年齢	50歳以上の者（胃部エックス線検査については、当分の間、40歳以上の者を対象としても差し支えない）		満40歳以上
受診間隔	原則2年に1回（当分の間、胃部エックス線検査を年1回実施しても差し支えない）		年度中に1回
撮影方法	「新・胃X線撮影法ガイドライン改訂版（2011年）」を参考にすること	日本消化器がん検診学会の方式	日本消化器がん検診学会基準（2011年発行）に順ずること
撮影技師		3 日本消化器がん検診学会による研修を終了 日本消化器がん検診学会認定技師	
読影	1 原則として十分な経験を有する2名以上の医師	2 原則として2名の医師（うち一人は日本消化器がん検診学会認定医）	十分な経験を有する医師

第1回 胃がん専門会議にて

<主なご意見>

- ・二重読影は質の高い検診を行うために必須、絶対やらないといけない。早急に体制を整えるべき。
- ・認定医に関しては、すぐに認定を取っていただくことは難しい。
- ・一人は認定医というのは難しい問題である。
- ・感度特異度の問題はあるが、二重読影を行えば感度は上がる。総合判定をどのように実施するかで、特異度は変わる可能性がある。一般的には、どちらかが“要精検”とすれば、感度は上がり特異度は下がる。習熟した医師が二次読影を行い、一次読影医の拾いすぎを外すことで特異度は上がる。



二重読影の実施状況について、政令市及び大阪府下の市町村を対象にアンケートを実施

①②③について、現在、大阪市胃部エックス線検査を実施している医療機関を対象にアンケートを実施

胃部エックス線検査二重読影にかかる他都市調査結果

- 大阪市は、個別方式による二重読影の実施が出来ていない。
- しかし、大阪府下・政令市ともに、約9割が医師会や委託医療機関による二重読影を実施している。

●政令市

政令市（20市）	二重読影	市町村数	割合
個別方式	実施している	13	81.3%
検診取扱：16市	実施していない	3	

実施場所	
医師会	4
委託医療機関	3
医師会・委託医療機関	5
委託医療機関・その他	1

●大阪府下

大阪府下（43市町村）	二重読影	市町村数	割合
個別方式	実施している	22	88.0%
検診取扱：25市町村	今後実施予定	1	
	実施していない	2	

実施場所	
医師会	4
委託医療機関	13
医師会・委託医療機関	1
医師会・委託医療機関・その他	1
委託医療機関・その他	1
その他	2

胃部エックス線検査二重読影にかかる取扱医療機関実態調査結果

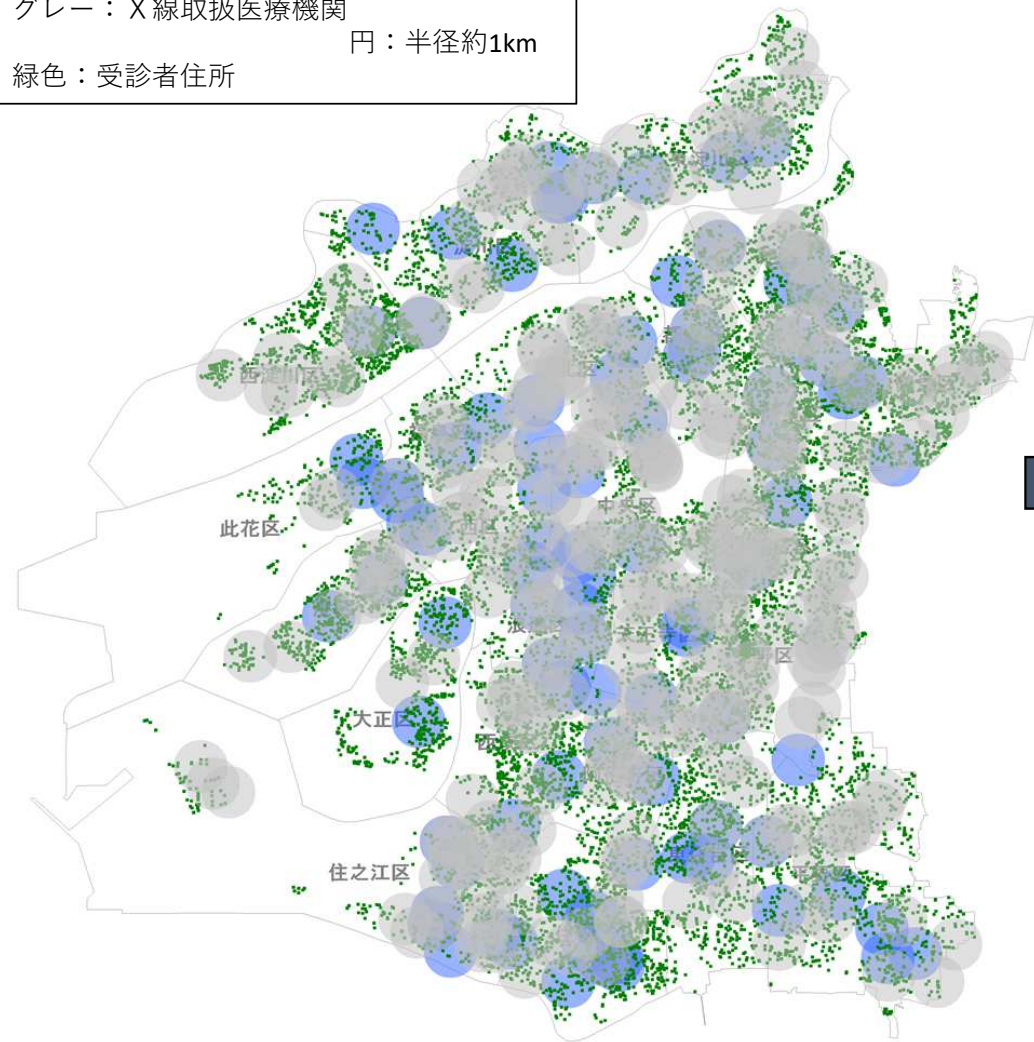
- エックス線に二重読影を取り入れることで、施設数は現在のおよそ1/3に減少し、浪速区が空白区となるが、受入可能数は、受診者実績及び大阪市目標値を上回っている。
- なお、認定医の資格要件を満たす施設は、上記より更に1/3に減少（現在の1/9）し、空白区が増加する。

区名	エックス線 取扱医療機関数 (R2.11.1現在)	エックス線二重読影可能（回答率77.7%）		左記内、1名は認定医	撮影認定技師	内視鏡取扱 医療機関数②	施設合計 (①+②)
		施設数①	受入可能数	施設数			
北区	20	11	9776	5	3	6	17
都島区	6	1	2496	1	1	5	6
福島区	6	4	1144	2	0	2	6
此花区	3	2	676	1	1	4	6
中央区	20	7	4526	1	5	5	12
西区	9	5	12272	3	2	8	13
港区	8	4	27820	2	3	2	6
大正区	2	1	2600	0	1	3	4
天王寺区	11	4	1872	1	1	4	8
浪速区	9	0	0	0	1	4	4
西淀川区	9	2	1664	2	2	2	4
淀川区	16	5	10660	3	2	9	14
東淀川区	16	4	50	1	1	5	9
東成区	15	4	1664	0	1	3	7
生野区	22	3	2912	1	3	3	6
旭区	12	1	70	0	2	5	6
城東区	18	5	5460	2	3	6	11
鶴見区	12	3	9152	0	2	5	8
阿倍野区	13	3	1820	0	1	3	6
住之江区	23	4	1612	3	3	9	13
住吉区	9	5	936	3	0	11	16
東住吉区	8	2	104	1	1	4	6
平野区	16	5	2508	2	3	6	11
西成区	11	5	572	1	4	4	9
合計	294	90	102408	35	45	118	208

《平成31年度 胃部エックス線受診者住所及び取扱い医療機関所在地 分布》

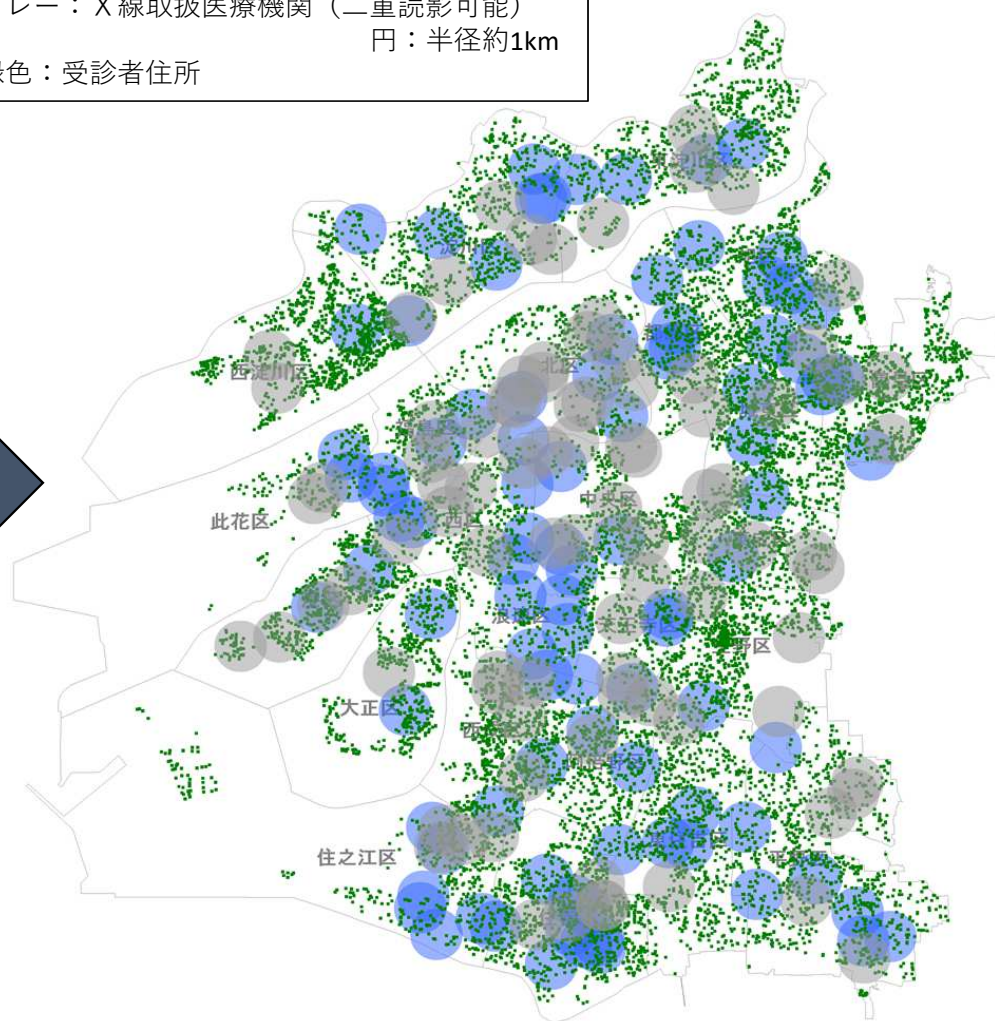
●現状

青色：内視鏡のみ取扱い医療機関
グレー：X線取扱い医療機関
円：半径約1km
緑色：受診者住所



●エックス線（二重読影可能）施設 + 内視鏡取扱施設

青色：内視鏡検査のみ取扱い医療機関
グレー：X線取扱い医療機関（二重読影可能）
円：半径約1km
緑色：受診者住所



胃部エックス線検査取扱医療機関参加基準・仕様について

検討項目	
読影	二重読影 内、1名は日本消化器がん検診学会認定医
撮影	日本消化器がん検診学会認定技師 又は、日本消化器がん検診学会の研修終了

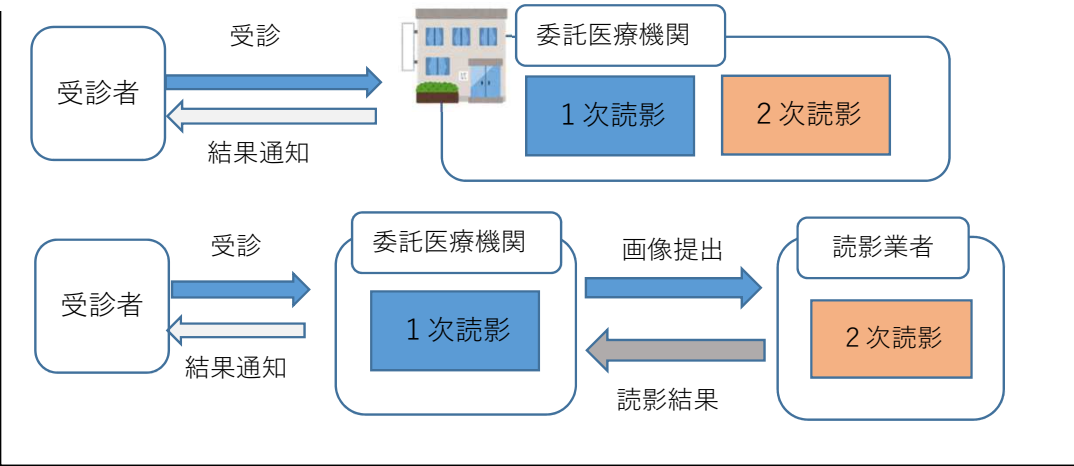
受診者数（エックス線）		二重読影「可能」医療機関で受診	
1年度	13,345人（個別）	受診者	6,966人
		キャパ調査結果	102,408人

受診者数	X線	内視鏡	大阪市 目標値 (すこやか)
平成27年度	31,149人		46,500人
平成28年度	29,249人		
平成29年度	25,555人	3,043人	
平成30年度	25,647人	6,301人	
令和1年度	21,867人	5,466人	

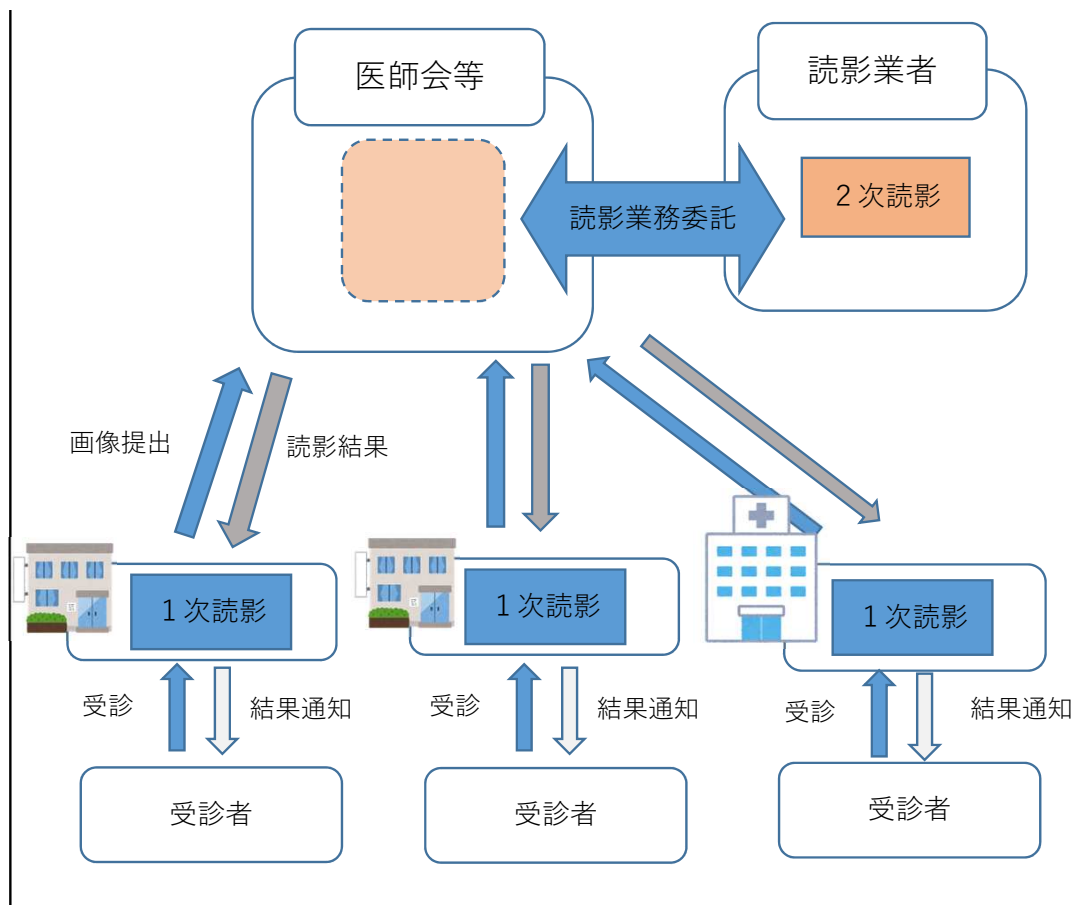
二重読影の実施方法		メリット	懸案
委託医療機関で実施	委託医療機関（自施設）内で二重読影を実施 医療機関同士の連携等		認定医以外も読影を実施
外部機関で実施	読影専門機関で実施 ①クラウド ②データ・フィルム搬送	認定医が実施	①アナログで実施する医療機関の対応 ②結果返却までの時間 長
	読影委員会で実施 ①クラウド ②データ・フィルム搬送	認定医が実施	①②体制整備に時間がかかる ②結果返却までの時間 長

二重読影実施方法（案）イメージ

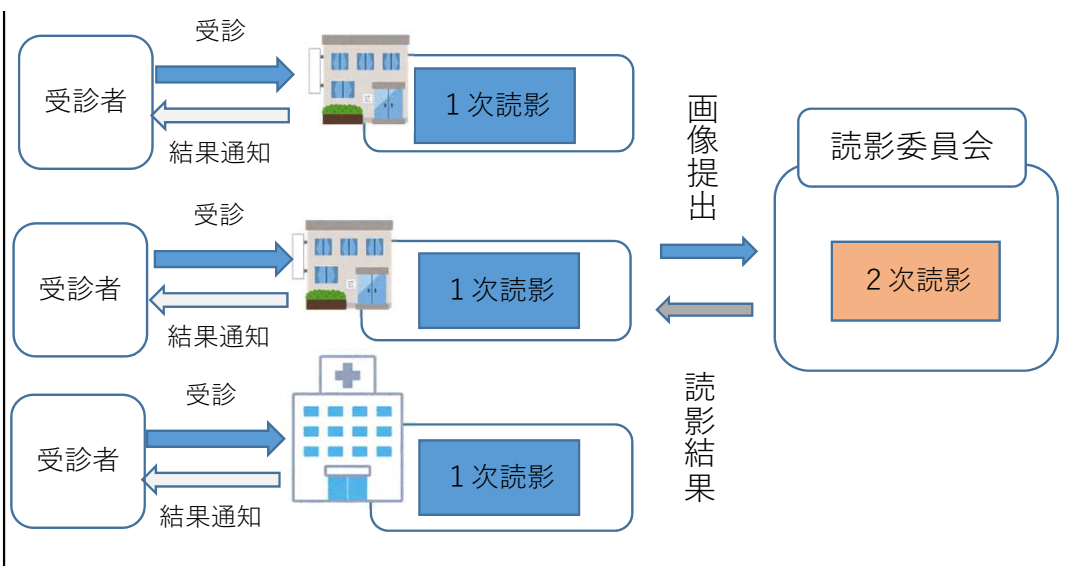
①委託医療機関で実施



②外部機関で実施（読影専門機関）



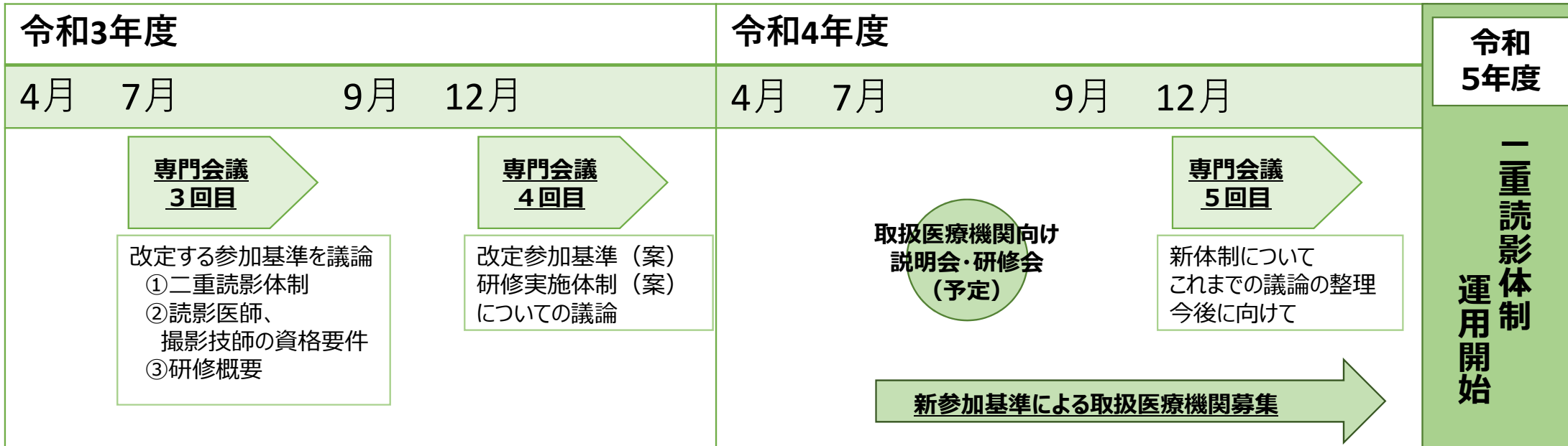
③外部機関で実施（読影委員会）



※結果通知は委託医療機関が行う。
 ※委託両機関からの画像提出は「外部記憶媒体」「クラウド利用」など。
 ※②の場合の画像提出は、委託医療機関と読影業者間で送受することも可能。
 ※③の場合の総合判定は、2次読影医を認定医とすれば、読影委員会が行うことも可能。

今後のスケジュール（案）

※最短でのスケジュール案であるため、検討結果により、スケジュールは変更される。



**二重読影体制
 運用開始**

改定参加基準・研修体制の確立

実施機関確定・運用に向けた研修など

議題

(1) 大阪市胃がん検診（胃部エックス線検査）実施体制について

(2) 大阪市胃がん検診の受診率向上について

受診率向上のこれまでの主な取り組み

- 1 がん及びがん検診に関する周知・啓発
 - ・民間企業やすこやかパートナーと連携（スポーツの試合やイベント等での啓発や広報）
 - ・各種広報をはじめとした情報発信
- 2 がん検診受診環境の整備
 - ・総合がん検診の拡充・集団検診の休日開催の実施など
- 3 区や保険者との協働による取り組み
 - ・被用者保険（協会けんぽ）、市国保と連携した特定健診との同時実施
 - ・広報での協力体制（がん検診の内容を掲載しセット受診を勧奨）
- 4 効果的な受診勧奨・検診方法等の導入・検討
 - ・個別勧奨の実施や本市 I C T 戦略室との連携による検証

令和3年度

これまでの取り組みを踏まえ、選択と集中により効果的な取組を実施していく

- I C T の検証から個別勧奨の対象設定（不定期受診者・前年受診者などに勧奨し継続受診者を増加させていく）
- 市国保との連携により、複数回の勧奨を行う
- 広報や勧奨のチャンネルを増やす（ダイレクトメールだけでなく、動画配信やショートメールの活用の検討）
- 対象者要件を見直し、よりわかりやすく、受けやすい体制に（胃部エックス線検査しか受けられない職域市民に本市胃内視鏡検査の受診ができるように等）